

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和3年度 進行管理調査

資料1

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
 E・・・未着手
 A・・・十分な成果を得られた B・・・一定の成果を得られた
 C・・・想定した成果に少し届かなかった D・・・思うような成果を得られなかった
 E・・・評価不能

基本方針	基本目標	達成度別事業数					充実度別事業数					事務局 自己評価・今後の方向性	新潟市スポーツ推進審議会 (スポ柳都にいがたプラン推進会議) 評価(ご意見・ご要望等)
		A	B	C	D	E	A	B	C	D	E		
健康スポーツ (P2~5)	子どもから高齢者、障がい者までが生涯にわたって、スポーツ・レクリエーションを通じて、健康で豊かな生活を営むことのできる取り組みを推進します。	5	10	2	1	4	6	11	0	1	4	○ 昨年度は新型コロナウイルスの影響により、半数以上の事業が中止等(達成度「E」)になったが、そこで培ったノウハウやウィズコロナに即したスポーツイベントのあり方等の研究により、開催形態の工夫や事業の変更をすることで、多くの事業を開催することができたことは前向きにとらえている。 ○ 「スポ柳都にいがた」プランに掲げるスポーツ実施率の向上のために最も重要な目標であり、今後ともコロナ禍でも開催できる事業や実施方法を研究しながら事業を実施していく。	○ 令和2年度はあらゆる事業が中止という流れがあったが、令和3年度はコロナ禍において如何に中止にせず開催・継続するかを大変柔軟に対応していた点は評価できる。コロナ禍でできることはすべて実施できたのではないかと。
競技スポーツ (P6~7)	新潟から世界へ羽ばたく選手を育成し、世界を目指すスポーツ文化の発信地になる夢を実現するため、競技力の向上を推進します。	0	3	0	1	1	0	3	0	1	1	○ 国際大会等出場者激励金の支給件数が増加し、前年度と比較した時のスポーツの回復傾向がみてとれる。強化事業においては、継続的な育成が不可欠であるが、コロナ禍においても活動できるよう、各競技団体に感染症対策経費を助成するなどの支援も実施した。ジュニア強化においては、全国大会で活躍する選手が輩出されるなど、一定の成果も見られた。一方で障がい者スポーツについては大会派遣の中止等もあり、思うような成果を出せなかった。 ○ 引き続き、ジュニア強化や障がい者スポーツの普及に資する事業を実施していく。	○ 事務局による「自己評価・今後の方向性」とおり
みるスポーツ (P8~9)	国際・全国規模の大会やナショナルチームの合宿等を誘致するとともに、地元プロスポーツチームとの連携を推進し、トップアスリートのプレーを見ることで感動と興奮を共有し、ふれあいや地域の交流を促進します。	1	1	2	0	2	1	3	0	0	2	○ 国際ユースサッカーやアイスアリーナイベントなど、中止になった事業もある中で、2年ぶりに開催したプロ野球公式戦やオリンピックのフランス空手チームの合宿に伴う公開練習等、トップアスリートのプレーをみる、あるいは交流する機会を提供することができた。 ○ WEB広告や新潟市LINEによる広報と旧来の広報を組み合わせる等、告知方法の研究も継続していく。 ○ 新潟市文化・スポーツコミッションを中心とした各団体と連携して、合宿や大会の誘致を柔軟に行っていく。	○ LINE等のデジタル媒体による広報は、それを利用できる人からすると有用だが、利用できない人の目には届かない。その点で旧来の紙ベースによるアナログな広報を組み合わせるやり方は非常に評価できる。
支えるスポーツ (P10~12)	地域で気軽にスポーツに親しめる環境づくりを促進するとともに、スポーツ施設の将来的なあり方についての方針を検討します。	0	4	4	2	0	0	7	3	0	0	○ スポーツに親しめる環境づくりとして、ハード面では引き続き、必要な補修工事を行いながら中長期的な大規模改修や集約化の検討を丁寧に進めていく。またソフト面では、近年イベントの中止等により、それを支えるボランティアも活動機会が少なかった。新潟シティマラソンをはじめとした各種イベントの再開、継続によりボランティアの活動も再開させ、地域でスポーツを支え、親しめる環境づくりを促進する。	○ 事務局による「自己評価・今後の方向性」とおり
スポーツ情報ネットワーク スポーツ医科学支援体制 (P13)	スポーツ情報の発信に努めるとともに医科学支援体制の充実を図ります。	0	3	0	0	0	1	2	0	0	0	○ スポーツ医科学支援体制については、にいがたスーパージュニア育成事業である3団体を対象として事業を実施し指標のとおり達成した。引き続き、強化指定選手を医科学面でサポートしていく。 ○ スポーツ情報の発信については、引き続き利用に関わる情報を迅速かつ適切に提供していく。	○ 事務局による「自己評価・今後の方向性」とおり

※各事業の自己評価は、別紙参照

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和3年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	健康スポーツ:生涯にわたるスポーツ活動を推進します。
基本目標	子どもから高齢者、障がい者までが生涯にわたって、スポーツ・レクリエーションを通じて、健康で豊かな生活を営むことのできる取り組みを推進します。

A・・・指標を上回って達成
 B・・・指標とおり達成
 C・・・指標を少し下回った
 D・・・指標を大きく下回った
 E・・・評価不能

A・・・充分な成果を得られた
 B・・・一定の成果を得られた
 C・・・想定した成果に少し届かなかった
 D・・・思うような成果を得られなかった
 E・・・評価不能

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
 7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価					R4数値目標			
			R3数値目標	R3実績	(参考)R2実績	達成度	充実度		理由・原因	事業の方向性	理由・原因
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)						
1	新潟シティマラソン	市民の健康増進や本市の魅力発信を図ることを目的に、本市を象徴する市街地や豊かな水辺をコースとして12,000人のランナーを迎えて開催する本市の一大スポーツイベント。 台風や新型コロナウイルス感染症の影響により、3年連続で開催できなかったが、2種類の代替イベントを開催し、コロナ禍におけるスポーツ離れの解消、障がいの有無や年齢を問わずランニングを楽しめる機会の提供やシティマラソン再開に向けた機運の醸成などを図ることができた。 ・新潟シティマラソン2021ランニングフェスティバル ×10kmタイムトライアル 10月2日(土) ×にいがた2km 10月10日(日)	エントリー者数 1,400人 (代替イベント)	エントリー者数 871人 (代替イベント)	エントリー者数 ・リモートチャレンジ 1,498人 ・10000mTT 474人 (代替イベント)	C	B	新型コロナウイルス感染拡大懸念の影響などにより、目標人数には届かなかったものの、参加者に対するアンケートでは87.7%の方からイベントに「非常に良かった/良かった」と回答があった。	1	前回及び今回開催した代替イベントで得た新型コロナウイルス感染予防対策のノウハウを活かし、次年度はポストコロナ・ウィズコロナにおける通常大会を開催することを目指す。 併せて、障がいの有無や年齢を問わず参加できる新種目「ユニバーサルラン」を実施する。	エントリー者数 ・マラソン:12,000人 ・ファンラン:3,000人 ・ユニバーサルラン :400人
2	少年少女スポーツ大会	児童の健全育成や親睦、コミュニケーション能力の育成を図ることを目的として、昭和40年より開催している。 8月21、22日(土、日)、1月9日(日) 種目:バレー、バスケット 参加チーム総数:53チーム	エントリーチーム数 野球:60チーム サッカー:80チーム ミニバス:140チーム バレー:30チーム	エントリーチーム数 バスケット(5年生):23チーム バレー(男子):30チーム	エントリーチーム数 野球:60チーム サッカー:74チーム バレー:30チーム ※ミニバスケットボールの部は中止	D	D	新型コロナウイルス感染症対策として、全競技共通、競技独自の対策を予定している。新型コロナウイルス感染症予防対策を施しながら、他の小学生の種目については、競技別ガイドラインにより中止とした。	2	令和4年度は、従来通り4競技(野球、サッカー、バスケット、バレー)の開催を予定している。新型コロナウイルス感染症予防対策を施しながら、他の小学生のスポーツ大会の先駆けとなるような大会にしたい。	エントリーチーム数 野球:60チーム サッカー:80チーム ミニバス:140チーム バレー:30チーム
3	早起き野球大会	早起き野球を通して、市民が積極的にスポーツに親しみ、スポーツ振興と相互の親睦を図ることにより豊かな社会生活に寄与することを目的に開催。 【第55回新潟市早起き野球大会】 開催期間:5月17日～7月26日 会場:ハードオフエコスタジアム新潟 他9会場	エントリーチーム数 90チーム	エントリーチーム数 91チーム	中止	B	B	エントリー者数が目標数値に届き、かつ、他のスポーツイベントが開催できないものが多い中、感染対策を徹底しながら無事に表彰式まで終えることができた。	2	今後も日本有数の参加数を誇る本大会をさらに魅力ある大会にし、野球を通じて市民がスポーツに親しめる場を提供できるように努める。	エントリーチーム数 100チーム
4	新潟シティライド	自転車を有効に活用して市民の健康の維持・増進とサイクリングスポーツの普及・促進を図ることを目的として、市内をサイクリングしながらエイドステーションで新潟ならではの食を堪能できる新潟シティライドを開催した。 開会式の中止やスタート時間を分散させるなど感染対策を徹底して実施した。 開催日:6月6日(日) ロングライド(120km)・ショートライド(33km)	エントリー者数 ロングライド:400人 ショートライド:50人	エントリー者数 ロングライド:428人 ショートライド:50人	中止	A	A	規模の縮小による三密回避など基本的な感染症対策を実施し、2年ぶりに開催した。参加者は、サイクリングを楽しみながら、本市の食と自然の魅力を発見、再認識する機会となった。	2	令和4年度は、前年度の方を踏襲、また反省点を改善し、通常大会実施に向けた足がかりとなる大会としたい。	エントリー者数 ロングライド:400人 ショートライド:50人
5	新潟ヒルクライム	岩室地域の魅力を全国に発信し、交流人口の拡大を図るとともに、サイクリングスポーツの振興を目的として、岩室温泉をスタートし弥彦山スカイラインを麓から頂上まで自転車で駆け上がるイベント。 開催日:9月5日(日) ヒルクライム:岩室温泉から弥彦山頂(距離7.6km/5.3km) 新型コロナウイルス感染症にかかる特別警報が発令され、直前での開催中止となった。 ※参考 エントリー者数 350人	エントリー者数 350人	中止	エントリー者数 436名	E	E	新型コロナウイルス感染症にかかる特別警報が発令され、公共施設の休館やイベント自粛が要請されたため、中止とした。	2	令和4年度は、元年度以来の1マイルタイムトライアルの実施を予定している。新型コロナウイルス感染症拡大状況を注視しながら、通常大会実施に向けた足がかりとなる大会としたい。	エントリー者数 350人

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和3年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	健康スポーツ:生涯にわたるスポーツ活動を推進します。
基本目標	子どもから高齢者、障がい者までが生涯にわたって、スポーツ・レクリエーションを通じて、健康で豊かな生活を営むことのできる取り組みを推進します。

A・・・指標を上回って達成
B・・・指標とおりに達成
C・・・指標を少し下回った
D・・・指標を大きく下回った
E・・・評価不能

A・・・十分な成果を得られた
B・・・一定の成果を得られた
C・・・想定した成果に少し届かなかった
D・・・思うような成果を得られなかった
E・・・評価不能

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価						R4数値目標		
			R3数値目標	R3実績	(参考)R2実績	達成度	充実度	理由・原因		事業の方向性	理由・原因
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)						
6	氷上スポーツ体験学習推進事業	新潟市アイスアリーナで小学生に氷上スポーツを体験させることで氷上スポーツ愛好者の底辺拡大を図るため、市内小学校の校外活動時の施設利用料金と送迎車両借上げ料に係る経費を助成した。	実施校数 70校	実施校数 49校(51学級)	実施校数 52校(53件)	C	B	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から実施を取りやめた学校(6校)があり、昨年度実施校数(52校)を下回った。 一方で、継続利用の割合は87.7%と高く、実施後の児童の感想として、「今度は家族と一緒にいきたい(既に家族と利用した)」、「初めての体験で楽しかった」という声が寄せられ、児童にとってよい機会になったと考える。	3	高い継続利用率に加え、新規に事業を実施する学校を増やすため、各校の年間計画の策定に配慮し、周知・事業の開始時期を早めて事業の周知を行う。また、本事業助成対象である車両借上げ料について、学校側の負担減少のため、補助上限額の見直しを図る。	実施校数 70校
			2,600	1,572	1,748						
7	氷上スポーツ教室事業	国内外で活躍する選手や講師を招聘し、アイスホッケーの教室・体験会を行った。	氷上スポーツ教室事業 実施数 1回	氷上スポーツ教室事業 実施数 1回	氷上スポーツ教室事業 実施数 1回	B	B	氷上スポーツ教室事業においては、新型コロナウイルスの影響により、いくつかの教室が中止・見送りとなった中、国体代表選手を招聘し、アイスホッケージュニア体験スクールを実施した。	2	氷上スポーツ教室事業は、ジュニア層の競技力向上を目的に競技団体と連携を図り実施する。また、新型コロナウイルス感染症感染防止に係る競技別ガイドライン等を遵守し、安心安全な教室事業となるよう努め、実施機会の拡大を図る。	氷上スポーツ教室事業 実施数 3回
			10,000	10,046	8,840						
8	市民綱引き大会 (スポーツ協会)	冬期間のスポーツとして位置づけ、地域スポーツの振興と市民相互の親睦を図るとともに健康維持・増進を目的に開催する。開催に向け実行委員会を開催し準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けを中止とした。 ー一般の部(混成) ・小学生の部(低・中学年の部、高学年の部) 低中学年 4年生以下 高学年 5年生以上	エントリーチーム数 小学生の部:30チーム	0	中止	E	E	開催をするため準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により大会を中止した。	2	コロナ禍でも開催できるよう、実施内容について実行委員会と協議・検討をする。	エントリーチーム数 一般の部:15チーム 小学生の部:30チーム
			524	224	0						
9	スポーツ体験フェスタ (スポーツ協会)	市民が気軽にスポーツを体験することにより、新たなスポーツ人口の発掘・底辺拡大を目的に、スポーツレクリエーションを開催した。	参加者数 500人	参加者数 760人	参加者数 600人	A	A	スポーツの裾野の拡大に向けてより多くの人にその魅力を伝えるため、幼児・小学生などを対象にJSPO日本スポーツ協が推奨するACP(アクティブチャイルドプログラム)運動遊びプログラムのほか、陸上・ラグビー・相撲・ウエイトリフティング・空手・野球の各体験会を実施し、スポーツ人口の底辺の拡大向上を図った。 スポーツ少年団たすきリレーマラソンでは、イベントを通じスポーツ少年団登録への啓発とともにチーム間交流が促進され活性化を図ることができた。	2	スポーツの普及・拡大に向けて、更に加盟団体等と連携を図り事業を継続して実施する。	参加者数 700人
			1,300	760	744						
10	市民サッカー大会 (スポーツ協会)	生涯スポーツの普及と市民相互の親睦を図り、健康の維持増進を目的に、サッカー大会を開催する。	エントリーチーム数 60チーム 参加者数 800人	エントリーチーム数 59チーム 参加者数 770人	中止	B	B	参加者相互の交流のほか、生涯スポーツの普及振興並びに健康増進を図った。	2	今後も実行委員会と連携し、充実した大会が開催できるよう内容を協議し実施する。	エントリーチーム数 60チーム 参加者数 800人
			500	500	300						
11	市民総合体育祭 (スポーツ協会)	春季と秋季の年2回、スポーツ協会加盟団体がスポーツの普及振興と競技力向上を目的に開催する。	開催種目数 春季:20種目 秋季:25種目	開催種目数 春季:20種目 秋季:23種目	開催種目数 春季:1種目 秋季:21種目	B	B	新型コロナウイルス感染症の影響より指標を下回っているものの、加盟団体と連携し、市民の健康増進と競技力の向上が図れた。	2	競技の普及・振興ならびに競技力の向上に寄与することから今後も感染防止の対策を講じながら事業を継続して実施する。	開催種目数 春季:20種目 秋季:25種目
			1,350	910	478						
12	新潟県障がい者スポーツ大会開催事業	新潟県とともに、全国障害者スポーツ大会の派遣選考大会である「新潟県障害者スポーツ大会」を開催した。	参加者数 個人競技:7種目・70人 団体競技:5種目・160人	参加者数 個人競技:7種目・255人 団体競技:5種目・160人	※出場予定者 個人競技:6種目・76人	A	A	新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じながら、各競技を開催し、指標以上の参加者数での開催であった。	2	令和4年度は全国障害者スポーツ大会も開催予定である。本大会は全国大会の選考材料ともなる大会であり、より多くの方に大会の存在を認知してもらいたい。各々面への周知を行っていき	参加者数 個人競技:7種目・250人 団体競技:5種目・160人 388
			399	399	0						

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和3年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	健康スポーツ:生涯にわたるスポーツ活動を推進します。			
基本目標	子どもから高齢者、障がい者までが生涯にわたって、スポーツ・レクリエーションを通じて、健康で豊かな生活を営むことのできる取り組みを推進します。	A・・・指標を上回って達成 C・・・指標を少し下回った E・・・評価不能	B・・・指標とおり達成 D・・・指標を大きく下回った	A・・・十分な成果を得られた B・・・一定の成果を得られた C・・・想定した成果に少し届かなかった D・・・思うような成果を得られなかった E・・・評価不能

1・・・充実	2・・・現状維持	3・・・内容見直し
4・・・縮小	5・・・廃止・休止	6・・・完了
7・・・その他		

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価					R4数値目標			
			R3数値目標	R3実績	(参考)R2実績	達成度	充実度		理由・原因	事業の方向性	理由・原因
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)						
13	シニアはつらつにいがた 総おどり事業 (高齢者支援課)	「総おどり体操」について、講習会の開催や指導スタッフの派遣、自宅でも楽しめるオンライン講習会を実施し、高齢者が健康づくり・介護予防・生きがいづくりに気軽に取り組める機会を提供した。また、指導者養成講座を開催し、市民による自主的な広まりを推進した。	講習会等参加者数 延3,848人	講習会等参加者数 延4,910人	講習会等参加者数 延3,337人	A	A	新型コロナウイルスの影響で講習会を中止にする時期もあったが、それ以外の時期では毎回多くの方の参加があり、目標を上回ったため。	2	健康づくり等への関心が低い方への普及を図るため、関係機関・団体との協力を一層強化して活動を進めている。	講習会等参加者数 延4,437人
14	全国健康福祉祭事業 (高齢者支援課)	新潟市予選会で選出された選手に対し、全国健康福祉祭ぎふ大会に参加するための派遣に関する費用の助成を行う。なお、令和3年度は新型コロナウイルスの影響で大会の開催が見送られ、派遣は実施しなかった。	派遣人数 90人	派遣人数 0人	派遣人数 0人	E	E	新型コロナウイルスの影響で、全国健康福祉祭ぎふ大会の開催が見送られ、新潟市選手団の派遣を実施しなかったため。	2	予選会を主催している新潟県社会福祉協議会と協議しながら、予選会の参加種目を増やすなど、より多くの高齢者の参加につながるよう周知する。	派遣人数 95人
15	ウォーキング チャレンジ事業 (保健所健康増進課)	働き盛り世代の運動習慣定着を図るため、企業・事業所内でチームを組んで参加し、参加者自ら歩数を記録することを通して、歩く機会の増加や定着にチャレンジする事業所ウォーキングチャレンジを2回実施した。また健康づくりのきっかけとなるよう市民を対象としたウォーキングイベントを実施した。	参加事業所数:130事業所 市民向け企画の検討・実施	参加事業所数:132事業所 市民向け企画の検討・実施	参加事業所数 87事業所	B	A	事業所ウォーキングチャレンジの実施回数を2回に増やし、参加事業所数は目標を達成できた。実施後アンケートでは99%の事業所から次年度も「ぜひ参加したい/参加したい」という回答を得た。また、減塩の啓発と絡めた市民向けの企画を実施した。	1	前年度に続き、令和4年度も事業所ウォーキングチャレンジを年2回実施する。参加事業所の増加を目指し、アプリコースを新設する。令和4年度はアプリを活用した市民向けのウォーキングイベントを実施する。	参加事業所数:140事業所 市民向け企画の実施
16	新潟市障がい者大運動会 (障がい福祉課)	障がいのある方もない方も一緒にスポーツを行うことを通じ、親睦と友情の輪を広めながら「共に生きる喜び」をわからあい、障がいや障がいのある人への理解を深めるため、「新潟市障がい者大運動会」を開催する。 一当初から中止を決定済	当初から中止を決定済	中止	中止	E	E	新型コロナウイルスの感染拡大状況に鑑み、令和2年度及び令和3年度の開催について、中止を実行委員会で決定した。	7	令和5年度以降の開催については、令和4年度の実行委員会で検討する。	当初から中止を決定済
17	学校施設開放事業 (教育委員会 地域教育推進課)	生涯スポーツの振興を図るために、学校教育に支障のない範囲で、市立の学校施設等(体育館、武道場、プレイルーム等)を開放する。	164校で実施 (小106・中56・東特支・明鏡高)	164校で実施 (小106・中56・東特支・明鏡高)	164校で実施 (小106・中56・東特支・明鏡高)	B	B	学校施設を開放し、市民の健康増進と競技力の向上が図ることができた。	2	学校施設を開放することにより、市民の健康増進と競技力の向上に繋がっているため。	164校で実施 (小106・中56・東特支・明鏡高)

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和3年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	健康スポーツ:生涯にわたるスポーツ活動を推進します。	
基本目標	子どもから高齢者、障がい者までが生涯にわたって、スポーツ・レクリエーションを通じて、健康で豊かな生活を営むことのできる取り組みを推進します。	A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った E・・・評価不能

A・・・充分な成果を得られた
 B・・・一定の成果を得られた
 C・・・想定した成果に少し届かなかった
 D・・・思うような成果を得られなかった
 E・・・評価不能

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
 7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価							R4数値目標	
			R3数値目標	R3実績	(参考)R2実績	達成度	充実度	理由・原因	事業の方向性		理由・原因
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)						
18	体力向上ジャンプアップ推進事業 (教育委員会 学校支援課)	市内全小・中学校の取組を集約し、冊子にまとめ、全小・中学校に配付した。他校の取組を知ることで、自校の取組みの改善に生かすことにつながった。	すべての小・中学校の取組を学校別に集約し、情報提供	すべての小・中学校の取組を諸観点で類別し学校別に集約。情報提供。	すべての小・中学校の取組を学校別に集約し、情報提供	A	A	類別して集約できたことで、参考事例として活用しやすくなったため。	2	各校の取組を共有することで、取組の見直しにつながるため。	すべての小・中学校の取組を学校別に集約し、情報提供
19	子どもの体力向上指導者養成研修会への体育教員派遣 (教育委員会 学校支援課)	スポーツ庁主催の研修会オンラインにて指導主事が受講し、その後伝達研修を行った。	標記研修会がオンラインで実施されるため、指導主事1名が受講	標記研修会がオンラインで実施され、指導主事が受講した。	中止	B	B	計画通り実施できたため。	2	新学習指導要領全面実施に向けて、引き続き新学習指導要領の理解を深めるため。	幼稚園、小・中学校から3名の教員を派遣
20	小学校幼稚園体育指導者研修会 (教育委員会 学校支援課)	スポーツ庁主催の研修会に派遣した教員が指導者となり、市内全小学校の受講者に伝達講習会を実施した。	対象者51人 (北区、東区、中央区、江南区から各校1名以上) 市立幼稚園10人	対象者51人 (北区、東区、中央区、江南区から各校1名以上)オンラインで実施。 市立幼稚園10人	中止	B	B	参集不可で実技を伴った研修はできなかったが、オンライン研修に切り替えて重点を伝達することができたため。	2	学習指導要領に即した授業実現のために、このような実技講習会は有効であるため。	対象者56人 (秋葉区、南区、西区、西蒲区から各校1名以上)
21	中学校保健体育指導者研修会 (教育委員会 学校支援課)	スポーツ庁主催の研修会に派遣した教員が指導者となり、市内全小学校の受講者に伝達講習会を実施した。	対象者31人 (中央区、東区、北区、江南区の学校から各校1名) ※中等含む	対象者31人 (中央区、東区、北区、江南区の学校から各校1名)オンラインで実施。 ※中等含む	中止	B	B	参集不可で実技を伴った研修はできなかったが、オンライン研修に切り替えて重点を伝達することができたため。	2	学習指導要領に即した授業実現のために、このような実技講習会は有効であるため。	対象者27人 (秋葉区、南区、西区、西蒲区の学校から各校1名)
22	中学校柔道実技講習会 (教育委員会 学校支援課)	市内全中学校から各校1名参加し、講習会を実施した。	対象者27人 (秋葉区、南区、西区、西蒲区の学校から各校1名)	対象者27人 (秋葉区、南区、西区、西蒲区の学校から各校1名)オンラインで実施。	中止	B	B	参集不可で実技を伴った研修はできなかったが、オンライン研修に切り替えて重点を伝達することができたため。	2	学習指導要領に即した授業実現のために、このような実技講習会は有効であるため。	対象者31人 (北区、東区、江南区、中央区の学校から各校1名) ※中等含む

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和3年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	競技スポーツ・競技力の向上を推進します。
基本目標	新潟から世界へ羽ばたく選手を育成し、世界を目指すスポーツ文化の発信地になる夢を実現するため、競技力の向上を推進します。

A・・・指標を上回って達成
B・・・指標とおり達成
C・・・指標を少し下回った
D・・・指標を大きく下回った
E・・・評価不能

A・・・十分な成果を得られた
B・・・一定の成果を得られた
C・・・想定した成果に少し届かなかった
D・・・思うような成果を得られなかった
E・・・評価不能

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価										
			R3数値目標		R3実績		(参考)R2実績	達成度	充実度	理由・原因	事業の方向性	理由・原因	R4数値目標
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)							
1	ジュニア強化事業 (スポーツ協会)	新潟市からオリンピックなど国際大会で活躍し世界へ羽ばたく選手を育成するため、加盟競技団体と連携し、ジュニア世代(小・中・高校生)を対象とした強化事業を実施する。 ◆ジュニア強化事業 スポーツの振興と競技水準向上を目的に、加盟団体のうちジュニア選手の強化事業を実施している27競技団体に対して、係る経費の一部を助成して支援をした。 ◆にいがたスーパージュニア育成事業(以下、SJ育成事業) ボクシング、柔道、バドミントンの3種目について、新潟市からオリンピックなど国際大会で活躍する選手の輩出を目指し、オリンピック等の国際大会で活躍した選手やコーチを招へいして通年(年10回程度)による選手強化をした。	ジュニア強化事業実施数 27団体 SJ育成事業数 3事業	ジュニア強化事業実施数 27団体 SJ育成事業数 3事業	ジュニア強化事業実施数 24団体 SJ育成事業数 3事業	B	B	コロナ禍で実施が困難の中、ジュニア強化事業は各団体と連携し、実施状況や課題等共通の認識を持って強化を図っている。 SJ育成事業は3競技を継続し実施している。ボクシング・柔道では全国など優秀な成績を収めており、今後も期待ができると思われる。	2	ジュニア強化事業については、スポーツの普及振興や競技力の底上げを担う事業であることから、継続して実施していく。 SJ育成事業については、全国大会の優勝や上位に入賞するなど成果が出ている。今後も加盟団体と連携を図り強化を継続していく。 他の加盟団体においても実施の意向があり種目の拡充をしていきたい。	ジュニア強化事業実施数 24団体 SJ育成事業数 3事業		
			10,000	10,000	8,840								
2	スポーツ指導者講習会 (スポーツ協会)	新潟市との共催により本市の競技力の向上を図るため、ジュニア強化に携わる指導者や関係者など市民を対象とした研修会を開催する。	講習会開催数 2回	講習会開催数 2回	講習会開催数 1回 12人	B	B	講習会では、チームの組織運営のほか、指導者の役割と指導上の留意点などについて、地域などで活動する指導者の資質向上を図ることができた。	1	多様化する市民や競技団体のニーズに対応するため、今後も弁護士等を講師に迎え開催をしていきたい。	講習会開催数 2回		
			330	277	98								
3	国際大会等出場者激励金	本市を代表して国体及び海外での国際大会に出場する選手、監督等に激励金を支給し、また、全国大会に出場する小中高校生に対しても激励金を支給した。	実施	国体出場者 6人 国際大会等出場者 6人 小・中・高校生全国大会出場者 344人 障がい者スポーツ 1人	国体出場者 0人(中止) 国際大会等出場者 18人 小・中・高校生全国大会出場者 176人 障がい者スポーツ 1人	B	B	新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となっていた大会が、令和3年度は徐々に再開したことにより、支給件数、支給額ともに昨年の数字を大きく上回った。	2	今後も運用を継続し、スポーツの奨励と振興を図る。	実施		
			5,600	3,095	675								

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和3年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	競技スポーツ:競技力の向上を推進します。
基本目標	新潟から世界へ羽ばたく選手を育成し、世界を目指すスポーツ文化の発信地になる夢を実現するため、競技力の向上を推進します。

A・・・指標を上回って達成
B・・・指標とおり達成
C・・・指標を少し下回った
D・・・指標を大きく下回った
E・・・評価不能

A・・・充分な成果を得られた
B・・・一定の成果を得られた
C・・・想定した成果に少し届かなかった
D・・・思うような成果を得られなかった
E・・・評価不能

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価								
			R3数値目標	R3実績	(参考)R2実績	達成度	充実度	理由・原因	事業の方向性	理由・原因	R4数値目標
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)						
4	全国障がい者スポーツ大会選手派遣事業	令和3年10月に開催が予定されていた第21回全国障害者スポーツ大会「三重とこわか大会」へ新潟市代表として選手を派遣する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け派遣を中止した。 ※参考 派遣予定数 個人競技22人	個人競技 18人	派遣なし	派遣なし	E	E	新型コロナウイルス感染症の影響により派遣を中止した。	2	今後も障がい者の社会参加やスポーツに取り組むきっかけを作るため、より多くの方に出場機会を提供し市選手団を全国障害者スポーツ大会に派遣する。	個人競技 18人
			3,866		3,886						
5	「目指そう、支えよう、パラリンピアン」障がい者スポーツ推進事業	障がい者スポーツの普及へ向け、スポーツ施設において競技用具を整備し、従来の4施設に2施設を加え、貸出施設数を6施設に拡充した。 ナショナルチーム合宿においては、FIDバスケットボール日本代表合宿を受け入れた。 なお、講習会・体験会はコロナ禍により中止となった。	講演会・体験会の参加者数 20人 競技用具整備施設数 2施設 ナショナルチーム合宿数 2	講演会・体験会の参加者数 0人 競技用具整備施設数 2施設 ナショナルチーム合宿数 1	講習会・体験会の参加者数 19人	D	D	新型コロナウイルス感染症の影響により、講習会・体験会を中止とし、また、合宿の受け入れも目標に届かなかったため。	3	障がい者スポーツの普及へ向け、スポーツ施設における競技用具の整備と競技用具の貸出事業を継続して実施する。あわせて、スポーツ施設職員等へ向けた講演会・体験会を実施する。ナショナルチーム合宿の受け入れについては、他の合宿誘致事業と統合する。	講演会・体験会の参加者数 20人 競技用具整備施設数 2施設
			1,700	1,132	1,030						

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和3年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	みるスポーツ:みる機会、交流機会の拡大を図ります。
基本目標	国際・全国規模の大会やナショナルチームの合宿等を誘致するとともに、地元プロスポーツチームとの連携を推進し、トップアスリートのプレイを見ることで感動と興奮を共有し、ふれあいや地域の交流を促進します。

A・・・指標を上回って達成	B・・・指標とおり達成
C・・・指標を少し下回った	D・・・指標を大きく下回った
E・・・評価不能	

A・・・十分な成果を得られた	B・・・一定の成果を得られた
C・・・想定した成果に少し届かなかった	D・・・思うような成果を得られなかった
E・・・評価不能	

1・・・充実	2・・・現状維持	3・・・内容見直し
4・・・縮小	5・・・廃止・休止	6・・・完了
7・・・その他		

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価								
			R3数値目標	R3実績	(参考)R2実績	達成度	充実度	理由・原因	事業の方向性	理由・原因	R4数値目標
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)						
1	ドキドキ・ワクワクスポーツ ふれあい促進事業	プロスポーツチームを通じ、夢と感動を共有し、青少年の心身の健全育成とスポーツ文化の醸成を図るため開催した。 1. サッカー教室開催(アルビレックス新潟) 期日:令和3年8月22日～令和3年11月24日 全8区で開催 会場:みどり森の運動公園ほか 2. サッカー指導者派遣(アルビレックス新潟) 期日:令和3年5月15日～令和3年12月4日 48回 会場:デンカビッグスワンスタジアムほか 3. サッカー観戦招待(アルビレックス新潟) 期日:令和3年5月1日～令和4年3月26日まで15試合 会場:デンカビッグスワンスタジアム 4. サッカー観戦招待(アルビレックス新潟レディース) 期日:令和3年11月6日、令和4年3月20日 2試合 会場:新潟市陸上競技場、デンカビッグスワンスタジアム 5. 野球観戦招待(新潟アルビレックスBC) 期日:令和3年6月19日、20日 会場:HARDOFF ECOスタジアム新潟 6. バスケットボール観戦招待(新潟アルビレックスBB) 期日:令和3年10月22日、23日 2試合 会場:新潟市東総合スポーツセンター 7. バスケットボール観戦招待(新潟アルビレックスBBラビッツ) 期日:令和3年10月23日、24日 2試合 会場:新潟市東総合スポーツセンター	サッカー教室参加者数 307人 サッカー指導者派遣数 94人 サッカー(男子)観戦招待者数 6,116人 サッカー(女子)観戦招待者数 56人 野球教室参加者数 96人 バスケットボール(男子)観戦招待者数 60組 バスケットボール(女子)教室参加者数 47人	サッカー教室参加者数 351人 サッカー指導者派遣数 94人 サッカー(男子)観戦招待者数 6,630人 サッカー(女子)観戦招待者数 64人 野球観戦招待者数 154組 バスケットボール観戦招待者数 84組	B	B	サッカー(男子)観戦招待が目標値を上回った。令和3年度より観戦層の拡大を狙い、招待方法を見直し、1年間を3つの期間に分け、期間ごとに観戦したい1試合を選んで申し込む方式に変更した。その結果、とりあえず申し込む人が減り着券数が増加した。また、新規観戦の割合が増加し、これまでよりも広くプロスポーツ観戦の機会を提供できた。	2	サッカー(男子)観戦招待で方式変更の結果、観戦層の拡大を図られたことから、継続したい。 また、バスケットボール観戦招待数が目標未達になったことから広報を充実させ、より多くの小中学生にプロスポーツ体験の機会を提供したい。	サッカー教室参加者数 300人 サッカー指導者派遣数 94人 サッカー観戦招待者数 6,200人 野球観戦招待者数 122組 バスケットボール観戦招待者数 90組	
2	プロ野球招致推進事業	官民が一体となった「プロ野球新潟招致委員会」により、プロ野球公式戦を招致し、観戦招待事業を実施した。 また、横浜DeNAベイスターズの三浦新監督のトークショーは、新型コロナウイルスの影響により中止となった。 令和3年8月14日(土):雨天中止、8月15日(日):試合開催 横浜DeNAベイスターズ vs 東京ヤクルトスワローズ 令和4年1月26日(水):中止 横浜DeNAベイスターズ 三浦大輔監督トークショー	プロ野球公式戦開催数 1試合 ※1試合雨天中止	プロ野球公式戦中止	C	B	新型コロナウイルスの影響によるトークショーの中止や雨天により1試合の中止があったものの、2年ぶりに開催することができた。	2	プロ野球公式戦の開催実績を重ねるとともに、観戦招待事業をはじめとする興行支援を行い、機運の醸成を図りながら将来的な球団誘致も視野に入れ、交流人口の拡大、地域活性化につなげていく。	プロ野球公式戦開催数 1試合	
3	大会、合宿等誘致の推進	東京2020オリンピックの開催に伴い、国の感染症対策の指針などに基づき、フランス空手チームの事前合宿受入れを行い、歓迎セレモニーや公開練習といった市民交流事業を実施した。 また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、イベント中止が相次ぐ中、感染拡大状況を注視しながら、全国大会等の開催や合宿受入れを行った。 ◆全国大会等 Denkaアスレティクスチャレンジカップ2021、第4回女子硬式野球新潟大会、高円宮賜杯第41回全日本学童軟式野球大会 ◆合宿誘致 フランス空手チーム、アイスホッケー女子日本代表、ユニバーシティゲームズ卓球	国際・全国規模の大会数 1 ナショナルチーム合宿数 2	国際・全国規模の大会数 3 ナショナルチーム合宿数 3	全国大会数 3	A	A	コロナ禍による感染拡大状況を注視しながら、指標を上回る大会数を開催できた。	3	これまでのナショナルチーム合宿の受入れ実績を基に、市内での合宿実績を積み上げることで、市内の競技振興及び交流人口の拡大や、国際・全国大会の誘致・開催につなげる。	国際・全国規模の大会数 1 ナショナルチーム合宿数 2

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和3年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	みるスポーツ:みる機会、交流機会の拡大を図ります。
基本目標	国際・全国規模の大会やナショナルチームの合宿等を誘致するとともに、地元プロスポーツチームとの連携を推進し、トップアスリートのプレイを見ることで感動と興奮を共有し、ふれあいや地域の交流を促進します。

A・・・指標を上回って達成
B・・・指標とおり達成
C・・・指標を少し下回った
D・・・指標を大きく下回った
E・・・評価不能

A・・・充分な成果を得られた
B・・・一定の成果を得られた
C・・・想定した成果に少し届かなかった
D・・・思うような成果を得られなかった
E・・・評価不能

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価							R4数値目標	
			R3数値目標	R3実績	(参考)R2実績	達成度	充実度	理由・原因	事業の方向性		理由・原因
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)						
4	氷上スポーツイベント 開催事業	国内のトップスケーターや県内選手によるフィギュアスケート演技発表会等を開催することで、トップスケーターの技術に触れる機会を提供するとともに、市内・県内及び近県選手を中心とした競技会等を開催することで、フィギュアスケートの発展と技術レベルの向上を目指す。 ○アイスアリーナイベントの開催 新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催できなかった。 ○MGC三菱ガス化学アイスアリーナトロフィーの開催 令和3年8月28日(土)	イベント開催に向けた検討 競技会参加者数 58人	○アイスアリーナイベント 中止 ②MGC三菱ガス化学アイスアリーナトロフィー 競技会参加者数 69人	○アイスアリーナイベント 中止 ○MGC三菱ガス化学アイスアリーナトロフィー 58人	C	B	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、アイスアリーナイベントの開催を見送ったが、施設を利用した別のイベント等を開催することができた。 競技会については、感染対策を図りながら、新潟市アイスアリーナを拠点とした競技会を開催し、市内・県内をはじめ、近隣のフィギュアスケートの発展と競技レベルの向上に寄与した。	3	アイスアリーナイベント:知名度のあるゲストスケーターを迎えるなど、より多くの方楽しんでいただける魅力のあるイベントにするための検討を行いつつ、コロナ禍でもアイスアリーナを盛り上げるための別イベント開催に向けて調整を行う。 競技会:参加選手にとって、本競技会への参加・功績が競技生活におけるアドバンテージとなるよう、有名選手も参加するなど、知名度ある大会への成長に向けて、施設や関係機関と協議・連携をし、大会内容の充実を図っていく。	競技会参加者数 58人
5	国際ユースサッカー in新潟の開催	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、本大会は中止となった。 令和3年9月18日(土)～20日(祝・月) デンカビッグスワンスタジアム 他 参加チーム 海外招待 U17代表(メキシコ、モンテネグロ) U17日本代表 U17新潟選抜	開催回数 1回	中止	中止	E	E	新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止	2	ユースのトップチームによるレベルの高いゲームを本市を含む県内各地で開催することにより、サッカー機運の醸成及び地区サッカー協会の運営能力の向上に大きな役割を果たしている。 ※昭和63年からの全国ユースサッカー大会を前身とし、平成9年より「国際ユースサッカーin新潟」として毎年開催し、令和元年度で23回目を迎えた。	開催回数 1回
6	日韓交流少年サッカー の開催	日韓の小学生世代における国際交流と競技力の向上を目的に開催し、韓国蔚山市サッカー協会と新潟市サッカー協会の相互交流が図られている。(平成12年度から実施) 令和2年度から新型コロナウイルス感染症の影響により交流を休止している。	当初より中止が決定済 次年度以降の継続意向確認	中止	中止	E	E	新型コロナウイルス感染症の影響により交流は未実施	2	今後も相互交流を続けることを両協会から確認している。	交流の継続

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和3年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	支えるスポーツ:スポーツを支える環境を構築します。
基本目標	地域で気軽にスポーツに親しめる環境づくりを促進するとともに、スポーツ施設の将来的なあり方についての方針を検討します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
 E・・・評価不能

A・・・充分な成果を得られた
 B・・・一定の成果を得られた
 C・・・想定した成果に少し届かなかった
 D・・・思うような成果を得られなかった
 E・・・評価不能

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
 7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価										
			R3数値目標		R3実績		(参考)R2実績	達成度	充実度	理由・原因	事業の方向性	理由・原因	R4数値目標
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)							
1	スポーツ施設の管理運営・整備	スポーツの普及振興を図り、市民の健全な発達と明るく豊かな市民生活の形成に寄与するため、本市が設置するスポーツ施設の管理運営を行う。また、スポーツ施設の運営が円滑に行われるよう必要な補修工事を行う。	施設利用者数 3,200,000人	施設利用者数 約2,540,000人	施設利用者数 約2,300,000人 ・市陸上競技場改修 ・新津金屋運動公園 多目的広場芝生改修	D	B	R3目標はコロナ前ベースであったため、当然そこまで利用者は回復していない。しかしながら、休館期間をふまえて利用者数は明らかに回復傾向にある。ガイドラインに基づき管理運営がなされ、陽性者の発生やトラブルは非常に少なかった。	2	市民の健全な発達と明るく豊かな市民生活のため、スポーツ施設の管理運営及び必要な補修工事を行う。	施設利用者数 3,200,000人		
2	スポーツ施設の整備・改修方針の検討	昭和39年開催の新潟国体に合わせて整備された施設など老朽化が進んでいる施設もあり、大規模な改修や更新、施設の集約化を計画的に行う必要があることから、スポーツ施設の整備・改修方針の検討を行う。	集約化方針の検討 全体的な方針の決定	財務部において 公共施設再編案策定 関係団体に対し 説明会を実施	集約化方針の検討 個別施設計画の策定	B	B	廃止となる施設管理者からは概ね理解を得たが、市スポーツ協会を中心に競技団体からは、より丁寧なコミュニケーションやスポーツ施設全体の施策が必要との申し出を受けた。引き続き議論を重ねていく。	2	より丁寧なコミュニケーションやスポーツ施設全体の施策が必要であることから、引き続き関係団体と議論を重ねていく。	公共施設再編案の推進		
3	スポーツと音楽功労者表彰事業	スポーツと音楽芸能の振興及び発展を目的に、功績が顕著な個人または団体を表彰している。 表彰数:スポーツ関係507件(令和4年3月31日現在)	実施	実施 (スポーツ関係8名)	実施 (スポーツ関係9名)	B	B	市スポーツ協会を通じ競技団体などからの推薦に基づき、スポーツ・音楽功労者選考会議に諮り、適正に表彰を行った。また、市報にいがたや市HPを通じて表彰の詳細を公開することにより、「スポーツと音楽都市宣言」の意義・理念を市民に伝えている。	2	今後も、本市のスポーツと音楽芸能の振興及び発展に尽くした功労者を表彰し、スポーツを支える環境づくりを進める。	実施		
			330	426	385								

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和3年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	支えるスポーツ:スポーツを支える環境を構築します。
基本目標	地域で気軽にスポーツに親しめる環境づくりを促進するとともに、スポーツ施設の将来的なあり方についての方針を検討します。

A・・・指標を上回って達成
B・・・指標とおり達成
C・・・指標を少し下回った
D・・・指標を大きく下回った
E・・・評価不能

A・・・充分な成果を得られた
B・・・一定の成果を得られた
C・・・想定した成果に少し届かなかった
D・・・思うような成果を得られなかった
E・・・評価不能

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価										
			R3数値目標		R3実績		(参考)R2実績	達成度	充実度	理由・原因	事業の方向性	理由・原因	R4数値目標
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	予算額							
4	スポーツ推進委員の活動推進	地域スポーツの推進役となるスポーツ推進委員の資質向上を目的に市スポーツ推進委員連盟自主研修会及び新年研修会を開催した。	研修会開催数 2回 参加者数 計200人	研修会開催数 2回 参加者数 計162人	研修会開催数 1回 参加者 24人	C	C	新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで5月に自主研修会、1月に新年研修会を開催した。コロナ禍ではあったものの、概ね目標通りの参加者数で実施することができた。	2	自主研修会、新年研修会どちらも感染症対策を講じて実施する予定。	研修会開催数 2回 参加者数 計200人		
			0	0	0								
5	スポーツ振興会の育成・支援	スポーツ振興会の中心的役割を担うマネージャーの育成と資質向上のため研修会を開催した。	研修会開催数 1回 参加者数 160人	研修会開催数 1回 参加者 68人	研修会開催数 1回 参加者 24人	D	C	NPO法人全国ラジオ体操連盟1級ラジオ体操指導士関川正明氏を講師に招き、実技研修会を開催し、コロナ禍においても自宅でも気軽にできるラジオ体操の、指導・助言に必要な知識の習得を行った。	2	今後も市スポーツ推進委員連盟などと連携し、充実した研修会が開催できるように内容を協議し、実施していきたい。	研修会開催数 1回 参加者数 160人		
			0	0	0								
6	スポ柳都にいがた指導員養成研修会	ジュニア層の指導者の養成・資質向上のため、研修会を開催した。本研修会修了者を少年少女スポーツ大会の指導者資格の一つとしている。 令和3年8月1日 会場:東区プラザ 講師:渋谷康行氏(一社)スポーツフォーキッズジャパン代表)	参加者数 100人	参加者数 89人	参加者数 63人	C	B	当日欠席があり、参加者数の目標には届かなかったが、参加者アンケートの結果では、研修内容について「参考になった」との回答が96.5%(昨年度93.6%)となり、昨年度を上回る結果となった。	1	参加者アンケートより、「シーズンオフ(1~3月)開催」を望む声が増加していることから、R3年度よりこれまでの7月下旬~8月上旬と、1月~3月の年2回開催を検討(市スポ協との共催も含む)する。今後もアンケートを踏まえ参加者のニーズに沿った講演内容を検討し指導者の資質向上のための一助となる研修会を実施していく。	参加者数 100人		
				99	99								
7	スポーツボランティアの育成	例年10月に開催している新潟シティマラソンにおいて、救護や給水、手荷物返却などの業務に従事するボランティアを公募している。新型コロナウイルス感染症の影響により、規模を縮小した代替イベントを開催し、学生・企業ボランティアは募集しなかった。	市主催スポーツイベントにおけるボランティアの活用	シティマラソン代替イベント一般公募ボランティア数 36人	シティマラソン代替イベント学生・企業ボランティア数 0	B	B	規模を縮小した代替イベントを開催したことで、スポーツ推進委員や一般公募のボランティアのみで運営することとなり、学生・企業からは募集しなかった。	1	新潟シティマラソンの再開に合わせて、学生・企業・一般公募ボランティアの募集を進める。	シティマラソン学生・企業・一般公募ボランティア数 600人		
			0	0	0								

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和3年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	支えるスポーツ:スポーツを支える環境を構築します。
基本目標	地域で気軽にスポーツに親しめる環境づくりを促進するとともに、スポーツ施設の将来的なあり方についての方針を検討します。

A・・・指標を上回って達成
B・・・指標とおりに達成
C・・・指標を少し下回った
D・・・指標を大きく下回った
E・・・評価不能

A・・・十分な成果を得られた
B・・・一定の成果を得られた
C・・・想定した成果に少し届かなかった
D・・・思うような成果を得られなかった
E・・・評価不能

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価					R4数値目標			
			R3数値目標 予算額(単位:千円)	R3実績 決算額(単位:千円)	(参考)R2実績 決算額(単位:千円)	達成度	充実度		理由・原因	事業の方向性	理由・原因
1	スポーツ少年団の育成 (スポーツ協会)	スポーツ少年団の普及・育成および活性化を図るため、登録業務や大会等を実施した。 なお、少子化等により登録数の減少傾向にある。	登録団体数 125団体	登録団体数 116団体	登録団体数 116団体	C	B	少子化等の影響による団体の合併・解散で登録団体数は減少傾向にあるものの、登録団による大会等を通じて育成及び活性化等の質的向上を図った。	2	スポーツ少年団活動は、地域におけるスポーツ活動の拠点として、スポーツの普及振興、青少年の健全育成に寄与していることから、今後も大会の開催や指導者の資質向上を図るため指導者研修会等を継続的に実施していく。	登録団体数 115団体
			440	215	77						
2	公共交通の強化及び 利用促進 (スマートウェルネスシティの推進) (都市交通政策課)	新バスシステムの段階的な機能向上により、過度な自動車利用から公共交通利用への転換を図り、公共交通利用による外出機会の増加を促す施策を展開する。	実施	実施	実施	B	B	◇モビリティ・マネジメントの推進 ◇「シニア半わり」の継続実施 ◇BRTの改善に係る調整・検討 ◇各施設の機能向上 ◇新バスシステム事業評価委員会の運営	1	◇モビリティ・マネジメントの推進 ◇「シニア半わり」の継続実施 ◇BRTの改善に係る検討・交通結節点等の施設整備 ◇PR活動の強化 ◇新バスシステム事業評価委員会の運営	実施
			216,675	196,246	210,391						
3	自転車利用環境の整備 (スマートウェルネスシティの推進) (土木総務課)	歩行者の安全確保、自転車の交通事故の削減、自転車利用の促進を目的に、自転車走行空間の整備、自転車利用ルール・マナーの啓発を推進した。	自転車走行空間整備の延伸 (目標延長L=3.5km)	・自転車走行空間整備の延伸 (目標延長L=2.3km) ・自転車利用に関する啓発のため、学校等へのチラシ送付(1回)	・自転車走行空間整備の延伸(16.5km) ・自転車利用に関する啓発のため、学校等へのチラシ送付(1回)	C	C	前年度豪雪の影響があり、予算確保に苦慮したため。	1	自転車走行空間整備を引き続き推進していくほか、自転車ルール・マナーの啓発活動の充実を図る。	自転車走行空間整備の延伸 (目標延長L=3.5km)
			20,000	13,076	50,158						

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和3年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	スポーツ情報ネットワーク・スポーツ医科学支援体制 :スポーツ情報ネットワークとスポーツ医科学支援体制を充実します。
基本目標	スポーツ情報の発信に努めるとともに医科学支援体制の充実を図ります。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおりに達成
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
E・・・評価不能

A・・・充分な成果を得られた
B・・・一定の成果を得られた
C・・・想定した成果に少し届かなかった
D・・・思うような成果を得られなかった
E・・・評価不能

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価					R4数値目標			
			R3数値目標	R3実績	(参考)R2実績	達成度	充実度		理由・原因	事業の方向性	理由・原因
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)						
1	目指せオリンピック! 医科学サポート事業 (スポーツ協会)	にいがたスーパージュニア育成事業の実施にあわせてスポーツトレーナー等の派遣や県医科学センターを活用し、傷害予防やコンディショニング調整を目的に競技力の向上を図る。 競技団体:柔道・ボクシング・バドミントン	スポーツトレーナー派遣 競技団体数3団体	スポーツトレーナー派遣 競技団体数3団体	スポーツトレーナー派遣 競技団体数3団体	B	A	練習面と傷害予防・コンディショニング調整等の一体化により競技力向上に寄与することから、コンディショニングの調整についてはスポーツトレーナーのほか県医科学センターを活用しながら更なる競技力向上を図った。	1	実施団体と現状等について共有を図りながら、オリンピックや国際大会等に出場・活躍する選手を継続的に輩出していくため強化指定選手を医科学面で更にサポートの支援をしていく。	スポーツトレーナー派遣 競技団体数3団体
			750	750	690						
2	公共予約システムの運用	市民がいつでも気軽にスポーツ施設を利用できるよう、インターネットによる施設予約システムの充実・運用を図る。	システム利用件数 30,000件	システム利用件数 約30,000件	システム利用件数 27,800件	B	B	専用利用者数はコロナ禍からの回復途上であるものの、システム利用件数は見込みどおりだった。令和3年度は休館があったことをふまえると、システム利用が普及・促進していると捉えている。	2	市民の利便性のため、施設予約システムの運用を継続し、必要な運用改善を図る。	システム利用件数 30,000件
			0	0	0						
3	スポーツ振興課 ホームページ	スポーツに関する施設、大会・イベント、団体などの情報について、市民への情報提供を行う。	アクセス数 900,000件	アクセス数 約970,000件	アクセス数 約900,000件	B	B	新型コロナウイルスにかかる施設の利用再開情報や利用ガイドラインへのアクセスが多くあった。	2	新型コロナでわかったとおり、利用制限などにかかる情報は、迅速かつ適切に提供していく。 シティマラソンやヒルクライムなどのイベントページへのアクセスが多いことから、情報の更新や充実を努める。	アクセス数 900,000件
			0	0	0						